

せんぞく 史跡千足古墳発掘調査現地説明会

岡山市教育委員会

日時：平成23年7月2日（土）13:30～

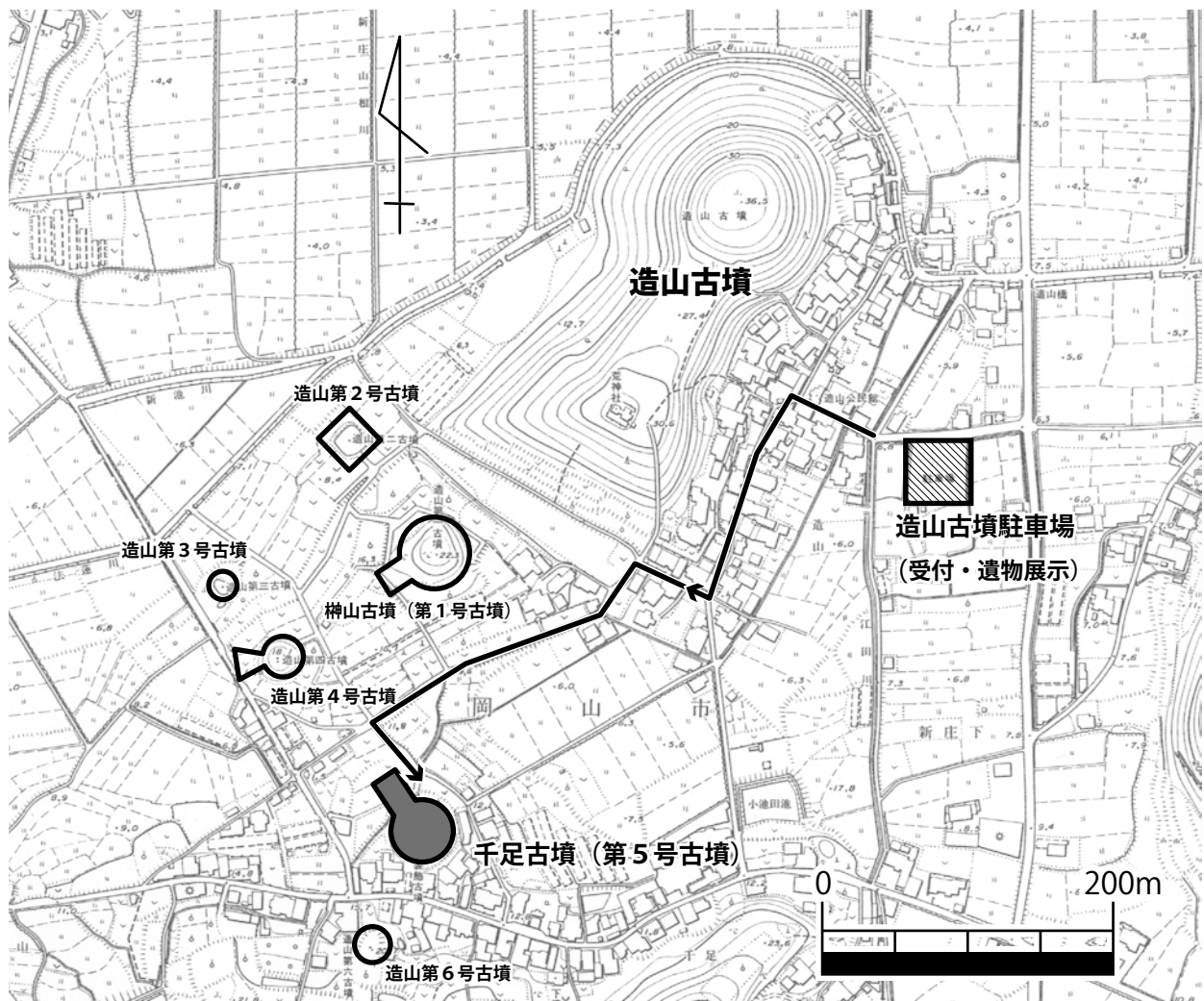
場所：岡山市北区新庄下（千足古墳）

はじめに

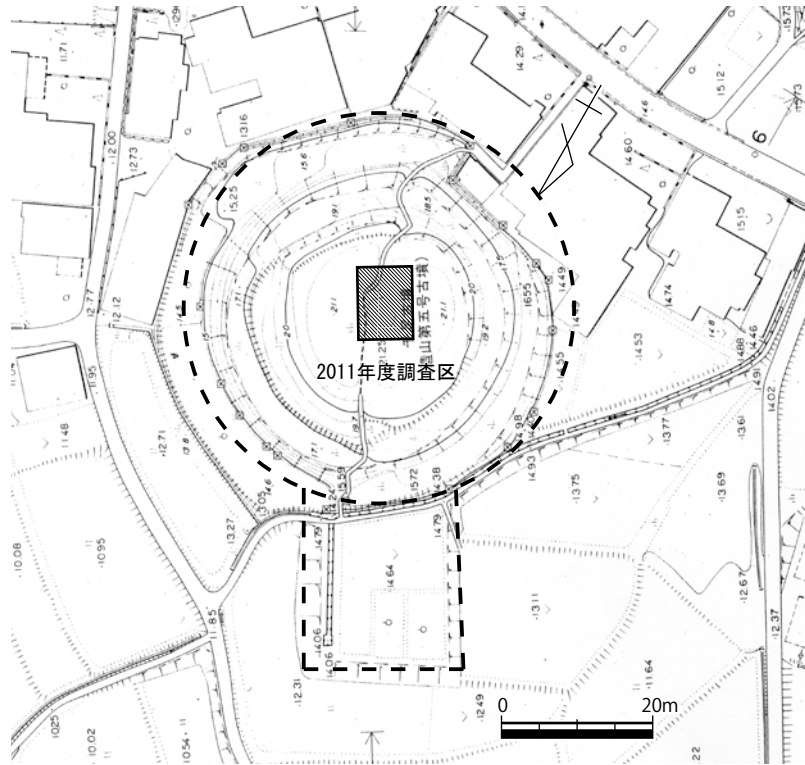
岡山市教育委員会では、石障の損傷が発見された史跡千足古墳の保存事業に伴い、5月より発掘調査を進めてきました。このたび調査がほぼ終了したため、みつかった遺構や遺物を公開することとなりました。

千足古墳について

千足古墳は、造山古墳群とされる、6基の古墳の中の一つです。墳形は前方後円墳で、前方部が後円部に比べて短い帆立貝形と呼ばれるものに含まれます。全長約74mで、後円部の径は約55m、墳頂部の径約25m、高さ約6.8mあり、後円部は三段築成と考えられます。



遺跡位置図（1/5000）



調査区配置図

調査成果の概要

今回の調査は、直弧文が彫刻された石材の抜き取りに先立ち、昨年度（2010）の調査によって確認した盗掘坑の範囲を発掘し、石室周辺の残存状況を確認することを目的としています。造山古墳群の埋葬施設に学術調査のメスが入るのは今回が初めてです。

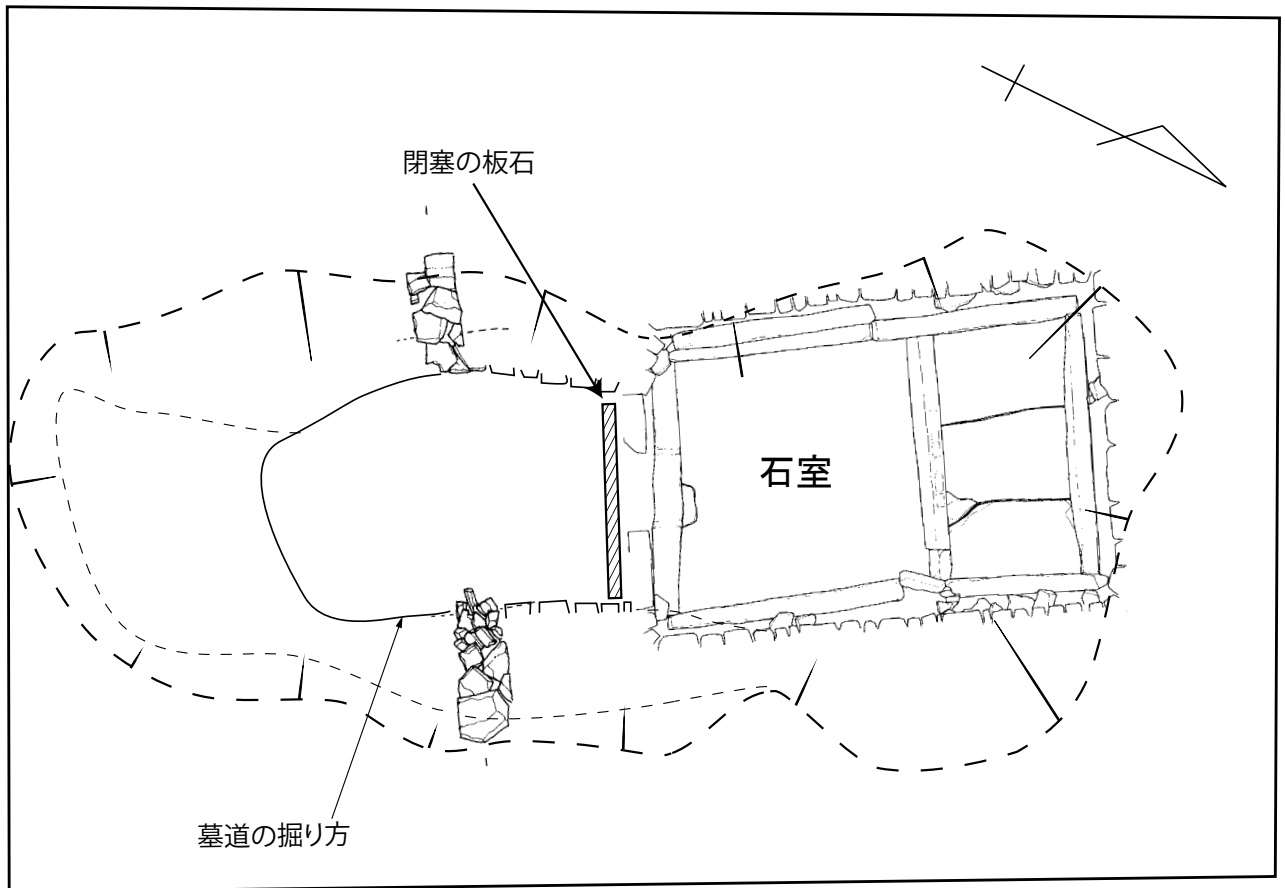
調査の結果、盗掘坑の下層をさらに掘り下げたところ、墓道（石室の入口につながる通路）を確認しました。この墓道は、石室の入口から急な斜面となって墳丘にかけあがります。こタイプの通路は、4世紀末～5世紀前半の北部九州を中心に作られたもので、このタイプの墓道を持つ石室を「初期横穴式石室」といいます。

石室は熊本県を中心に分布する「せきしょうけいよこあなしきせきしつ石障系横穴式石室」ですが、通路の構造は北部九州と類似している点に千足古墳の特徴があります。今回の成果から、古墳時代の吉備と九州の結びつきの強さが改めて確認されました。

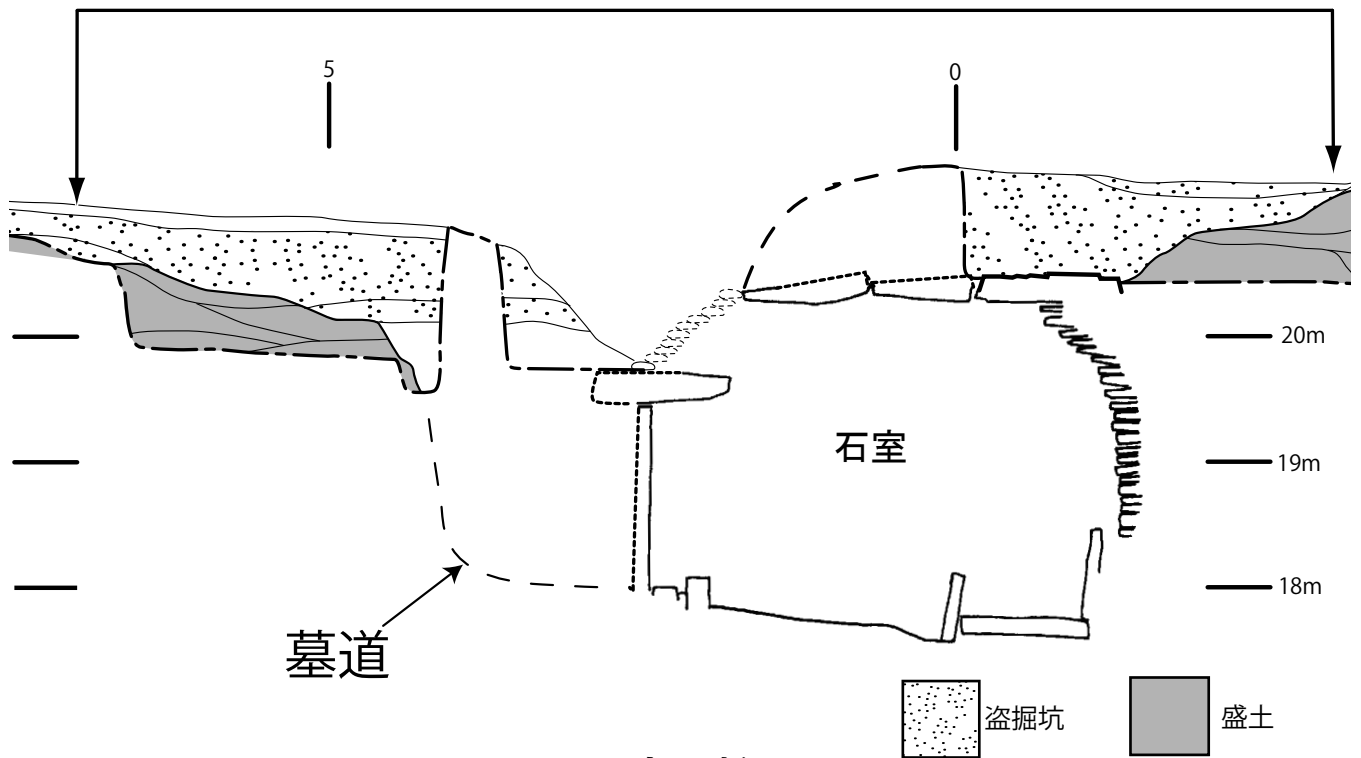
千足古墳は従来5世紀後半に築造されたと考えられてきました。しかし今回の発見から、造山古墳の築造時期により近い5世紀前半に築造された可能性が考えられます。造山古墳の性格や造山古墳群の築造関係を探る上で重要な成果といえるでしょう。

出土遺物

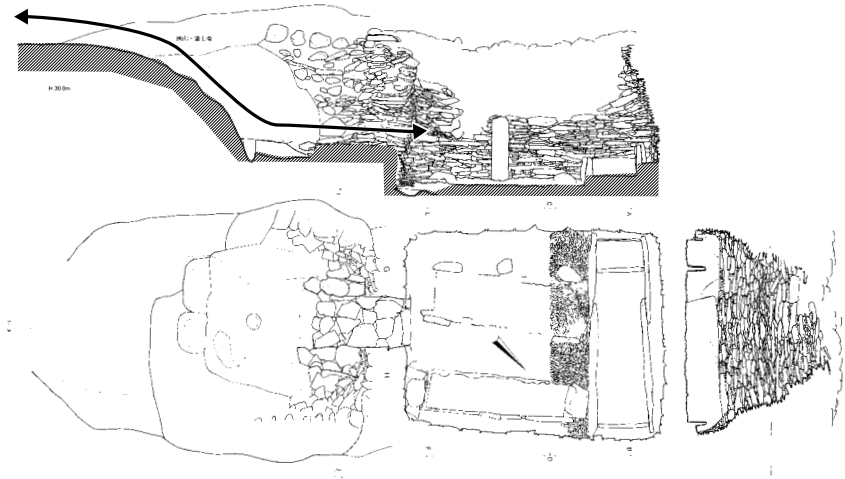
盗掘坑の埋土から、鉄斧や鉄鍬などの鉄器類が出土しています。乱掘時にみつかったものを埋め戻したものと考えられます。



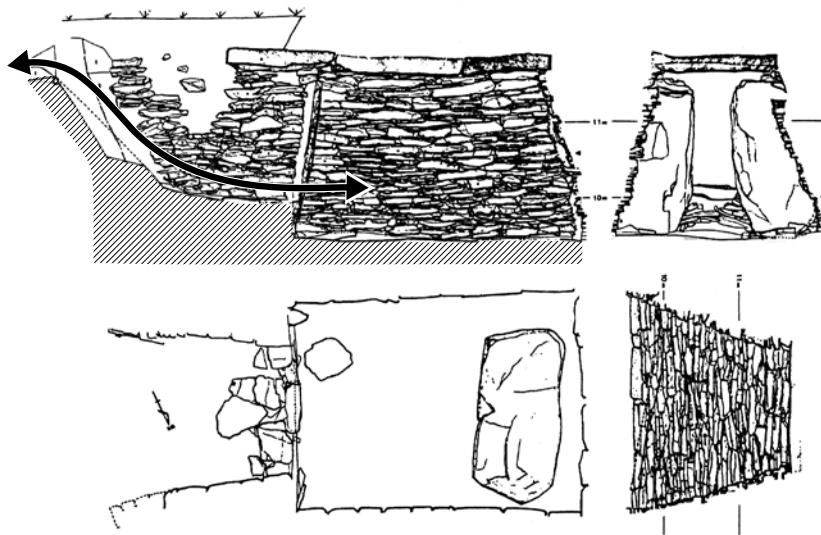
調査区平面図



調査区断面図



福岡県福岡市 鋤崎古墳 (1/100) 4世紀末～5世紀初頭



福岡県糸島市 釜塚古墳 (1/100) 5世紀前半

見学の混雑を避けるため、時間を区切って番号順に説明します。

皆様にはご迷惑おかけしますがご協力の程よろしく申し上げます。

資料1 頁目左上の番号が 1～50 の人 2時から始めます

資料1 頁目左上の番号が 51～100 の人 2時15分から始めます

資料1 頁目左上の番号が 101～150 の人 2時30分から始めます

資料1 頁目左上の番号が 151～200 の人 2時45分から始めます

資料1 頁目左上の番号が 200番以降の人 3時から始めます